

TGR TEAM ZENT CERUMO

2020 AUTOBACS SUPER GT Report

FUJIMAKI GROUP MOTEGI GT 300km RACE

第4戦 ツインリンクもてぎ

ZENT GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆9月13日（日） RACE

決勝結果 2位

立川祐路の会心のアタックで、見事SUPER GT第4戦もてぎのポールポジションを獲得したZENT GR Supra。しかし、これを結果に残さなければポールポジションの意味がない。TGR TEAM ZENT CERUMOは喜びもそこそこに、前日からドライコンディションの速さを追求し、9月13日（日）の決勝日を迎えた。



早朝こそ好天に恵まれていたツインリンクもてぎだが、午前中に雲が広がりはじめ、にわかに雨雲レーダーには雨の予報もでてきた。とはいえツインリンクもてぎに雨粒は舞わず、ドライコンディションのままレースが行われることになりそうだった。TGR TEAM ZENT CERUMOは午前11時40分からのウォームアップに臨み、決勝セットアップの確認を行った。



ただ、ここでのZENT GR Supraのフィーリングはいまひとつ。このままでは、せっかくポールポジションからスタートしても防戦一方になってしまう。チームは決勝レースを前に早急にセット変更を行い、ZENT GR Supraをグリッドにつけた。

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
RACING

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHIMADA
BRAKE FLUID

MOTUL
RACING WEAR

TGR TEAM ZENT CERUMO

午後1時、いよいよ決勝レースの火ぶたが切って落とされた。ZENT GR Supraのスタートドライバーを務めるのは立川だ。まずはオープニングラップでトップを守ると、レースをリードしていく。



序盤、なるべく大きなリードを築いていきたい立川は、ZENT GR Supraのフィーリングが好転していることを確認するが、後方からは2番手スタートの#17 NSX-GT、さらに5番手からスタートした#64 NSX-GTが1周目から追いつき、3番手につけ立川の背後に迫ってくる。もてぎはオーバーテイクが難しいコースで、そう簡単に立川がポジションを譲ることはないが、三つ巴のバトルが展開されていくことになった。

ZENT GR Supraのフィーリングは好転していたが、立川はなかなか思うように#17 NSX-GTとのギャップを広げることができない。逆にこの時点でのマシンの仕上がりとしては#17 NSX-GTに分があるのは明らかで、激しいパッシングを浴びせながら立川の背後に迫ると、GT300クラスのラップダウンをかわす混戦のなか、8周目のヘアピン立ち上がりでわずかに立川が詰まったスキを突き、#17 NSX-GTがトップに浮上。立川は2番手となった。

その戦いのなか、3番手の#64 NSX-GTとのギャップは開いており、立川は#17 NSX-GTを追っていくことになる。そんななか、10周目のV字コーナーでアクシデントが起き、セーフティカーが導入される。#17 NSX-GTとのギャップは縮まったが、15周目のリスタート以降も同様の展開となっていった。

心配された雨は降る様子もなく、トップを走る#17 NSX-GTは24周を終えピットに向かっていく。一方、TGR TEAM ZENT CERUMOはコース上のタイミングをうかがいながら、27周で立川をピットに呼び戻し、石浦宏明に交代した。



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
RACING

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東大

BBS

SHIMADA
BRAKE FLUID

M
RACING WEAR

TGR TEAM ZENT CERUMO

迅速なピット作業を終えピットアウトした石浦はふたたび#17 NSX-GT を追う展開になる。3番手には#16 NSX-GT が浮上してくるが、どちらも差が離れている状況。それでもレースは何が起きるか分からない。石浦はペースを保ちながらトップを追った。

46周目、その“何か”が起きた。GT500クラスの争いのなかでコース上にパーツが落下し、ふたたびセーフティカーが導入されたのだ。これで#17 NSX-GT との差がふたたび接近していく。51周目、レースがリスタートとなると、再度石浦はトップを追っていった。

ただ、今回のレースでは#17 NSX-GT の速さに軍配が上がることになった。石浦は懸命に前を追ったが、及ばず2位でチェッカーを受けることになった。悔しさはあるが、今季初表彰台にまずはホッとした気持ちと、そして次戦こそ優勝を目指すべく新たな闘志が TGR TEAM ZENT CERUMO に芽生えることになった。



TGR TEAM ZENT CERUMO

ドライバー／立川祐路

「ポールポジションからのスタートで勝つつもりでいたので、悔しい気持ちはありますが、今日やることはできたと思っています。序盤、#17 NSX-GT のペースが速いなかでなんとかトップを守りたかったのですが、混戦のなかでかわされてしまい、その後も少しでもついでにこうとプッシュし、後半で状況が変わるかもしれないと期待しましたが、今日はライバルの方が地力が優っていましたね。とはいえ、前戦の鈴鹿と今回と、戦える状況にあることは分かりましたので、今後に繋がる2位表彰台だと思います。結果としては残念な気持ちもありますが、その分次戦の富士にぶつけたいと思います」



ドライバー／石浦宏明

「決勝前のウォームアップで、自分たちのペースが思いのほか悪いことに気づき、急遽セットアップの変更を施しましたが、立川選手のペースがどうなのかを見ていたところ、トップの#17 NSX-GTには及ばないにしろ、悪くないことが分かったので、後半何かワンチャンスがないかと必死に食らいついていこうとドライブしました。ただ、結果的にペースの面で届かず、力の差をみせられてしまったと思います。今回は2位が最善のレースでした。悔しい気持ちはありますが、これを次に繋げられるようにしたいと思いますし、燃料リストラクターが厳しくなる状態で表彰台に乗れるかどうかタイトル争いに関わると思うので、目標を高くもっていきたいと思います」



村田淳一監督

「ドライコンディションでのクルマの状態をウォームアップで確認しましたが、いまひとつだったこともあり、セット変更をしたことでレースをいいペースで走ることができましたが、それ以上に#17 NSX-GT が速かったですね。なんとかバトルのなかでトップを奪い返すことを期待しましたが、力負けだった部分はあります。もちろん今季初表彰台は嬉しいですが、優勝を目指すチームですし、次戦の富士は燃料リストラクターダウンが入ることにはなりますが、表彰台は十分可能だと思っています。応援ありがとうございました」



TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝結果

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	17	KEIHIN NSX-GT	63	1'40.194
2	38	ZENT GR Supra	63	1'40.229
3	16	MOTUL MUGEN NSX GT	63	1'41.124
4	14	WAKO'S 4CR GR Supra	63	1'41.596
5	100	RAYBRIG NSX-GT	63	1'41.057
6	37	KeePer TOM'S GR Supra	63	1'42.017
7	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R	63	1'41.695
8	23	MOTUL AUTECH GT-R	63	1'40.971
9	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	63	1'40.587
10	64	Modulo NSX-GT	63	1'39.370
11	36	au TOM'S GR Supra	63	1'41.766
12	12	CALSONIC IMPUL GT-R	63	1'40.689
13	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R	47	1'42.017
	8	ARTA NSX-GT	26	1'40.743
	19	WedsSport ADVAN GR Supra	9	1'41.037

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

WAKOS

ADVICS

HEISEL

asics

JMS

T-SELECT

トヨタ東自大

BBS

SHOWA
BRAKE FLUID

MOTUL
RACING WEAR